



23年度 設立記念会・協会賞表彰式



2011東京aaca景観シンポジウム



栃木・福島建物見学会



東日本レポート



第176回 AACAFォーラム



第二回・第三回 AACA展

平成23年度 設立記念会・協会賞表彰式	2
第21回AACAA賞・第10回芦原義信賞	3~5
東日本会員レポート	出町光識会員 6
2011 aaca東京景観シンポジウム	7
第176回 AACAFォーラム	大野 彩会員 8
第6回 栃木・福島建物視察会	9
第二・三回AACAA展	10・11
理事会報告・新入会員/会員の移動	12

平成23年度 設立記念会・協会賞表彰式

開催日：平成23年12月7日（水）午後5時45分～8時
場所：建築会館大ホール（東京都港区芝5-26-20）
来賓：文化庁文化部芸術文化課 芸術文化調査官 眞住貴子様
芦原義信デジタルフォーラム 芦原初子様
（社）日本建築家協会会長 芦原太郎様
（社）日本建築家協会 関東甲信越支部支部長 上浪 寛様
（社）日本美術家連盟 事務局 池谷慎一郎様 高岡礼典様
（社）日本工学会 事務局長 四戸靖郷様
出席者 個人会員 33名、法人会員 44名
受賞者・一般 27名 合計104名
次第 会長挨拶 中島昌信会長
来賓祝辞 眞住貴子芸術文化調査官
表彰式 澄川喜一副会長

受賞作品プレゼンテーション AACA賞 宇土市立宇土小学校
同 // 優秀賞 ホキ美術館
同 // 特別賞 山古志村閘牛場リニューアル
同 芦原義信賞 該当作品なし
同 // 優秀賞 長楽寺 禅堂



眞住芸術文化調査官

平成23年度 AACA賞・芦原義信賞

審査総評

選考委員長 澄川喜一

21回を迎えるAACA賞、10回を迎える芦原義信賞共にレベルの高い作品が数多く応募され、これらの賞が広く社会に認知され評価されている事を嬉しく思います。特に、最近クライアントの方々が熱心に設計者と一体となって作品創造に深く関与され、賞に対して強い意欲をお持ちである事に敬意を捧げます。

建築・美術・工芸という空間芸術を総合的に捉えて評価するという視点は、他の建築賞や美術賞には見られない世界的にも全くユニークな賞といえると思います。

生活の文化的な側面から高い品質の空間芸術を多く評価して、人々に心の豊かさを感じて頂く事がこの賞の目的となっています。本年は38点の応募作品が寄せられプレゼンテーションパネルによる第1回目の審査が行われました。選考委員による入念な提案の理解と、厳しい議論を経て12作品が選出され現地審査の段階へと進みました。9名の選考委員がグループに分かれ、現地で建築主や施工者を交えて設計者から詳細な資料提供と説明を受け、質問や議論を行ってまいりました。最終審査会では現地審査を行った選考委員から各々の作品に対するコメントと評価点が出され、評価点の高い作品から順に各々の作品に対する議論が行われました。

AACA賞は応募24作品から9作品が現地審査に残され、厳しい議論の末にAACA本賞に宇土市立宇土小学校が選ばれました。L型の構造壁を散在させる事による、自由で変化に豊んだ空間構成と、シンプルで隅々まで行き届いたディテールによって

生まれた、爽やかでのびのびした情景がここで学ぶ子供達に、創造的で芸術的な感性を育てるであろう事を予感させる優れた作品でした。

優秀賞にはホキ美術館が選ばれました。個人美術蒐集家の建築主との親密なコミュニケーションの中から、真に芸術作家の各々が望む展示空間を実現しユニークな建築形態と共に、芸術への深い思い入れが感じられる作品でした。

山古志村閘牛場リニューアルは、震災で傷ついた地域の復興の為に土地の人々の強い思いの中で実現したプロジェクトに深い共感を覚えました。

奨励賞の2作品も工芸的手法を建築に生かした追手門学院や、児童養護施設として木のぬくもりを感じさせる三ヶ山学園等、質の高い作品でした。

芦原義信賞は残念ながら該当作品がありませんでした。

優秀作品に選ばれた長楽寺禅堂は大きなカンチレバーで浮かんだ白い壁の存在感が魅力的でした。

奨励賞の尾崎呉服店は歴史ある古い家屋と、斬新な現代建築の対比させた手法が評価され、豊洲キュービックガーデンは周辺に作られた都市環境との調和が高く評価されましたが、いずれも本賞迄には至りませんでした。

創造にかける強い意欲と数々の新しいアイデア、工夫に人間の創造力の無限な未来を感じさせる楽しく期待に充ちた審査会でした。

応募された方々の今後の活躍をお祈りすると共にAACAに対するより一層の御支援をお願いしまして審査講評と致します。

■ AACCA賞

「宇土市立宇土小学校」

作 者： 株式会社シーラカンズアンドアソシエツ
小島一浩・赤松佳珠子
所在地： 熊本県宇土市



■ AACCA賞 優秀賞

「ホキ美術館」

作 者： 山梨知彦＋中本太郎
＋鈴木 隆＋矢野雅規 / 株式会社日建設計
所在地： 千葉県千葉市緑区



■ AACCA賞 特別賞

「山古志闘牛場リニューアル」

作 者： 山下秀之＋江尻憲泰
／ 長岡造形大学、大原技術株式会社
所在地： 新潟県長岡市山古志南平



■ AACCA賞 奨励賞

「児童養護施設 三ヶ山学園」

作 者：野村充建築設計事務所

野村 充

所在地：大阪府貝塚市東山



「追手門学園大学一号館」

作 者：株式会社地所設計 須部恭浩

(铸件制作会社 傳來工房)

所在地：大阪府茨木市西安威



第10回 芦原義信賞

■ 芦原義信賞

該当作品なし

■ 芦原義信賞 優秀賞

「長楽寺 禅堂」

作 者：株式会社 竹中工務店

東京本店設計部 桑原裕彰

東北支店設計部 葛 和久、佐藤忠明、阿部克紀

所在地：福島県福島市舟場町



■ 芦原義信賞 奨励賞

「豊洲キュービックガーデン」

作 者：清水建設+梅垣春記(第一生命)

所在地：東京都江東区豊洲



「尾崎呉服店・尾崎邸」

作 者：株式会社 竹中工務店

広島支店設計部 門谷和彦、秦 敏彦

所在地：鳥取県鳥取市元魚町





出町光識

陶芸家

日本建築美術工芸協会会員

【元気なアートコラボポ

桜川芸術祭】アートディレクター

映画『猿の惑星：創世記』を親に映画館へいく。いわずと知れた1968年に公開された猿の惑星シリーズの最新作。このシリーズはテーマの違いはあれ、進化や共存がつねに描かれている。人とは好奇心として、人類の進化(進歩)あるいは共存するということを、いつでも本能で求めているのだろう。母親のお腹のなかでの、へその尾のつながりにはじまり、赤ん坊ときから誰かとつながりなしには、けして生きてはいけないものだろうから。

今年3月11日の震災で、心の絆や、見知らぬ誰かからも支援があり、つながっているのだという喜びの音が、さまざまなネットやメディアで取りざたされることが多かった。それは何も、大地震で新たに生まれたことではない。自然の猛威のなかで人の弱さが表面化して再認識させられたのだろう。

ボクの住む茨城でも震災被害は大きく、遠方の多くの友人に助けられたし、自分はさらに福島をはじめとした、東北への支援への活動をしている。それは義援金や物資に留まらずアートにおいてもそのように行動をした。

まず震災直後に福島にある「アクアマリンふくしま」という水族館が津波被害にあい、多くの魚たちが停電した環境悪化により死んでしまった、あるいは津波にのまれ海に流された魚も多かったようだ。そこで国内外の子どもたちに、魚の絵を描いてもらい、水族館へ応援メッセージを送ろうと、つながりを呼びかけ募集しました。

当時の不安な状況下で、被害先に送ることは勿論意味のあることですが、それにもまして多くの子ども達の心が不安になっていないだろうかという配慮からです。

そばにいる親や学校の先生に、一緒に絵を描くひとときで、心の在り処をシェアしてほしいという願いがあったのです。すると500枚を越える心こもったメールアートは、すぐに集まりました。その後は喜多方でひらかれている

【漆の芸術祭東北へのエール】に於いてコラボ作品として展示されることが決まり、芸術祭終了の11月23日まで展示、後「アクアマリンふくしま」へと届ける予定です。



もうひとつは福島県南相馬市に出かけて、避難所のボランティア活動をするなかで、掲示板で緊急避難準備区域のふたつの幼稚園の再開のお知らせを見ました。

それをメモしてすぐに電話連絡をすると、すでに園児が150名ほどいることを知る。幼稚園の元在った所へ行くと震災から3カ月後は経ったが、海から大分離れた場所にもかかわらず、津波により無数の船が流されて、座礁し残骸となっていた。統合された3人の園長先生達とお話をさせて頂き、それから1カ月の準備を置いて再度訪問することにした。

約束した子どもたちとは粘土ワークショップを開きそれぞれの作品をつくってもらった。彼らの笑い声は、汚染された外で自由に遊ぶ事を抑制された環境のなか、ものすごく元気で笑顔いっぱいなのが、とても印象的でした。子ども達の作品は喜多方市にある登り窯まで運び入れ、同じように喜多方の幼稚園の子ども達と、ワークショップした粘土作品とも一緒に、市民ボランティアさんの参加により焼成して、クリスマスプレゼントとして、もとの南相馬の子どもたちの手もとへ、送り届けます。これもまたアートでつながり、シェアしながらコラボする作品づくりだと思っています。



冒頭の『猿の惑星』は、戦時中の捕虜になった白人が、収容所にいた日本人をみて、猿に見立てて出来あがった空想のSF物語です。実際に猿の科学研究では、猿から類人猿へと進化した大きな理由は、ある少数の一部の猿たちの、顎の筋肉の貧弱さからでないかといわれています。筋肉の弱さから脳が肥大することが可能となり噛む力の弱さの代わりに、道具をつかうようになったようです。これらは相互関係をうみだして、つまりは弱者(マイノリティ)は進化をして、今の人になったようです。もちろんそこで、弱いからこそ仲間をつくり、コラボとシェアをしていくことになったのでしょう。

今もなお、3月11日に起きた震災被害の終息は見えてこない日本。誰かといっしょに寄り添い、つくりあげ、分かち合う物語は、これからも数多くの現場で生まれていくことだと思います。これからの美術に求められるものとして、個人的思考の表現だけでは、治まらないものがあるのではないかと、コラボしシェアするというつくり方が、マイノリティをこえて、ユニバーサルな表現ではないかと、と常々考えている。

そして現在は自ら企画した、地域の障害のある人たちとアーティストたちとのコラボ美術展(会期 平成24年1月17日~22日 会場 つくば美術館第2展示室)に向けて邁進中である。(平成11年11月記)

東京の都市景観を考える

東京には川や掘割が多く、江戸開府以来の勢団気を伝える場所も少なくない。そうした場所の一つである隅田川のほとりに、東京の新しいアイコンとして「東京スカイツリー」が加わった。

開府以来の歴史を映す内堀に接する丸の内界隈や、舟運を支えた日本橋川の周辺でも都市景観は変わり続け、東京は安心・安全・快適な、あらゆる意味で国際競争力を備えた都市であり続けようとしている。

開府以来の風景も継承しながら、東京はどのような都市景観を目指して変わっていくのだろうか。

『東京の都市景観を考える』をテーマに、〈2011 東京 aaca 景観シンポジウム〉を開催しました。

2011 東京 aaca 景観シンポジウム

第一部 懇話会「東京の景観・その魅力」

司会者：澄川喜一（彫刻家、東京藝術大学名誉教授）
 陣内秀信（建築史家、法政大学教授）
 中村光男（建築家、㈱日建設計会長）

第二部 パネルディスカッション「東京の未来をどう描くか」

コーディネーター：陣内秀信（建築史家、法政大学教授）
 高橋栄一（行政・都市計画・建築家）
 パネリスト：清水正徳（東京アーキテクチャー）
 新屋 良平（パナソニック）
 酒井 隆太郎（パナソニック）

日 時：2011年10月21日(金) 14:00-19:00
 会 場：パナソニック電工 汐留ビル 5階イベントホール 東京都港区新橋1-5-1
 定 員：300名（先着順）
 参加費：シンポジウム+交流会 8,000円
 シンポジウム 5,000円

後 援：文化庁、(社)日本建築学会、(社)日本建築家協会、(社)日本建築士会連合会、(社)日本建築士事務所協会連合会、公益財団法人日本美術協会の、(社)日本美術家連盟、協 力：池田林研、日建設計、東武グループスカイツリー、三井不動産、三菱地所、(五十数社)

主 催：財団法人日本建築美術工芸協会

『東京の都市景観を考える』

東京には川や掘割が多くその周辺には江戸開府以来の勢団気を伝える場所も少なくない。そうした場所の一つである隅田川のほとりに、東京の新しいアイコンとして「東京スカイツリー」が加わった。

開府以来の歴史を映す内堀に接する丸の内界隈や、舟運を支えた日本橋川の周辺でも都市景観は変わり続け、東京は安心・安全・快適な、あらゆる意味で国際競争力を備えた都市であり続けようとしている。

開府以来の風景も継承しながら、東京はどのような都市景観を目指して変わっていくのだろうか。

『東京の都市景観を考える』をテーマに、〈2011 東京 aaca 景観シンポジウム〉を開催しました。

第一部 鼎談

テーマ 東京の景観・その魅力

澄川喜一氏 彫刻家 東京藝術大学名誉教授
 陣内秀信氏 建築史家 法政大学教授
 中村光男氏 建築家 ㈱日建設計会長



陣内 みなさん、こんにちは。本日は非常に魅力深いテーマでシンポジウムを開催させて頂き、大変うれしく思います。東京の景観について真正面から

論じようというテーマにぴったりの澄川先生、中村先生をお招きしております。飛行機で東京に戻ってくると、目の前に東京スカイツリーが現れます。

スカイツリーは本当に東京の新しい顔になりました。

スカイツリーの最近のフィーバーぶりにはすごいものがありますね。



中村 いろんな所からよく見えますね。こんなに目立つとは思いませんでした。事前に分かる範囲ではいろいろと考えていたのですが、思わぬ所や意外な場所で見える。これは東京の街が善盤の目になってないからだと思います。



澄川 現実に実際の大きさになると驚きますが、自然の成り行きで楽しんでもらえば良いと思います。

陣内 この絵は鵜形恵斎(1764~1824年)が19世紀始めに描いた江戸の鳥瞰図です。ちょうどスカイツリーの展望台から見えるアングルになっています。本当に偶然というか、歴史の面白さですね。江戸っ子が見ていた同じアングルで、21世紀の私達が見ることになる。これは意識していたのですか。



中村 まったく意識していません。逆にこの絵を見た時、まさにスカイツリーからの景色だと思いました。非常に不思議な気がしますね。

澄川 鳥しか見えない構図を想像で描いています。偶然とは言え、すごいですね。

陣内 新しい電波塔の建設地として多くの候補地がありました。この押上を選んだ最大の魅力は、ここであれば、こういう風に見えるということでした。偶然ですが、とっても面白いですね。中村先生は実際に昇らせてみてどうでしたか。

中村 展望台に昇ると、東京の街は隅田川を中心に造られたことがよく分かります。江戸の街の構図が改めて分かる場所にスカイツリーが出来たことが確認出来ます。(以下 記録誌参照)

第二部 パネルディスカッション

テーマ 水辺を活かす街づくり

コーディネーター 陣内秀信氏

コーディネーター 高橋栄一氏 月刊「東京人」編集長

パネリスト 福水正徳氏 東武タワースカイツリー(株)

新原昌平氏 三井不動産(株)

遊佐謙太郎氏 三菱地所(株)



陣内 第2部では、東京の顔の中心で街づくりを手掛ける福水さん、新原さん、遊佐さんにご登場いただき、それぞれの街づくりが何を狙っているのかを伺いたいと思います。そして高橋さんにさまざま

角度、視点から街の魅力を伝えていただきたいと思ひます。では、まずは遊佐さんからお願いします。



遊佐 三菱地所の遊佐です。大手町、丸の内、有楽町の大丸有地区は西側がかつての『日比谷入り江』で、皇居周辺のお濠と日本橋川の水辺に面するエリアです。陣内先生がおっしゃった通り、江戸はお濠がいっぱいあり、ベニスのような水の都でした。



街づくりに関してですが、大丸有地区では経済、文化、社会、環境の四つの切り口から都市のサステナビリティを実現して行こうとしています。つくるのも大事ですが、できたものをいかに有効活用していくかということが重要で、それが充実してくると楽しい街になっていきます。そのため、大丸有地区の六つの街づくり関連組織がガイドラインに沿って、ハードソフトの両面から総合的な街づくりを推進しています。建物高さを定めてスカイラインを形成したり、低層の街並みを連続させたりして、にぎわいの連続性や表情線の継承をしています。外部空間や公的空間とが連続する公開空地ネットワーク型の街づくりや、景観を形成する上で重要な一体的空間を創出することを重視しています。夜景景観も大切に、夜でも楽しめる景観づくりにも力を注いでいます。



新原 三井不動産の新原です。私たちの街づくりの方向性は、日本橋のアイデンティティを活かした『日本製』の街づくりをしていこうということです。その

原点は『残しながら、蘇らせながら、創っていく』

ことです。この絵は『熙代勝覧』(きだいしょうらん)と言ひまして、文化2(1805)年の絵巻です。



ここには日本橋のにぎわいが描かれており、神田まで続く非常に長い絵巻です。日本橋の街づくりの方向性は示されているようです。こうしたことを踏まえ四つの柱で街づくりを進めています。一つ目は中央通りのセントラルアベニュー化です。美しい通りの景観を創出しようとしています。一方、一步入った路地には路地空間の界隈性を創出していきたい。これが二つ目。三点目は舟運の名残がある日本橋川の水辺空間を再生すること。四つ目はエリアブランディングの活動です。やはり日本橋というと『和』とか『伝統』がイメージです、この切り口でエリアブランディングをしていきたいと考えています。こうした方向性で開発しました。現在は日本橋室町東の開発を進めています。



福水 東武タワースカイツリーの福水です。スカイツリータウンは、電波塔、商業施設の東京ソラマチ、オフィス施設のイーストタワーで構成されています。また地域の防災拠点として貢献する機能も設け、地域の力になる事を目的にしています。地元行政とは『北十間川水辺活用構想』が進んでおり、下町文化が楽しめる水辺景観がにぎわいのある街にしていきたいと考えております。

江戸のように水辺を楽しめる時代が、もう目の前に来ていますし、街づくりや観光にぜひ活用して欲しい遊べるインフラはたくさんある、その流れに拍車をかけ楽しめる東京にしていきたいと思います。



高橋 丸の内は大名屋敷跡、日本橋は商業地、押上・向島は町人や職人の街であり行楽地という土地の由来を意識した、夢のある『街づくり計画』には感心しました。江戸は川の多い街で、庶民は川遊びに熱心でした。3社がそれぞれに川について触れ、川遊びと舟運の大切さを強調してくれました。スカイツリーの建設場所を選定する際に『川があったことが選ばれた理由の一つ』との事で墨田区も川に親しむ親水事業に力を入れています。

江戸のように水辺を楽しめる時代が、もう目の前に来ていますし、街づくりや観光にぜひ活用して欲しい遊べるインフラはたくさんある、その流れに拍車をかけ楽しめる東京にしていきたいと思います。

江戸のように水辺を楽しめる時代が、もう目の前に来ていますし、街づくりや観光にぜひ活用して欲しい遊べるインフラはたくさんある、その流れに拍車をかけ楽しめる東京にしていきたいと思います。

陣内 東京は都心も含め東が元気になってきました。各エリアは本物の歴史、文化の深さ、こだわりのスピリットなどを持つポテンシャルのある地域です。

こうしたエリアが相互的に連携し、または刺激し合って、次の展開に発展して欲しいですね。

みなさん、本日はありがとうございました。

「 フレスコ画の世界 」



大野 彩
美術家

武蔵野美術大学講師
元東京藝術大学講師
元多摩美術大学講師
日本建築美術工芸協会会員

工房ポルトスの壁画 《命の賛歌—祝福》

埼玉県さいたま市岩槻にある、「工房ポルトス」は障害を持った子供たちと、健常者がともに集う場です。

ポルトスの理念と独自の方法を持って幼児教育をプログラムしています。

ポルトス代表 須賀久恵さんはその紹介の中で、子供だけでなく、大人も老人も障害を持っている人たちも、いろいろな人たちがお互いに刺激しあい、ゆったりと自分と向き合い、心を癒し、自己を回復させる場所としての施設でありたいと、述べられています。



この施設は、自然素材だけで設計・建築されていますが、2010年増改築を進め建物中央に大広間ができました。

この部屋の壁面には大きな鏡があります。子供たちの中には鏡を恐れる子もいるので、自然に鏡に接する事を取り除こうとするのだそうです。私達は須賀先生の願いや思いを伺い、原画を制作しポルトスを造られた建築家・佐藤 清氏、左官の野村さん達の協力を得て、この大鏡の周りにフレスコ壁画を制作しました。

壁画のテーマはタイトル通り、誕生の喜びと生命賛歌ですが、人それぞれの自由な見方で、この絵を見ていただければと思います。

手法はブオン・フレスコです。砂はやや大きな粒子を含む山砂(小原砂)を混入して、画面を木鏡で荒らし、細かな凹凸を作りました。彩色はこの細かな凹部分と凸部分両方に色を付けるようにしながら着彩しました。

この方法で毎日、画面上方から壁面を作り、描き、翌日壁を塗り継ぎ、描くといった工程を繰り返します。

地の色は山砂のおかげで、やや黄味がかかった暖かな白色となっています。

鳥の部分は、白竜という白い人工碎石と石灰の真白い材料の盛り上げによって仕上げました。部屋の窓にあるステンドグラスと共に、明るい空間ができています。



部分(石灰盛り上げ)

画面左側の小窓から朝日が入り、右側からは昼、夕の光が入ります。1日のうちにも色味の変化があるのです。

このようなブオン・フレスコの壁は、調温・調湿にも優れ、湿度の高い時には湿気を吸い、低い時には湿気を吐き出してくれます。

部屋のさわやかさは、そのようなフレスコの性質に依る部分もありそうです。



「工房ポルトス」は、23年NPO法人を取得され、障害児教育にさらに力強い施設となって、その機能を発揮されています。

昨年3月の大震災以来、多くの人々が命の尊さを再認識し、これまでの経済社会の価値観から変換をし本当の幸せとは何かという問いに答えようとしているように感じます。

ここ「ポルトス」では、そのテーマがすでに在ったことを、改めて思います。我々も、みんなが何らかの障害をもっているとも言えると思います。個人の自由の大切さ、そして寄り添うこと、つながることの大切さを感じます。

縁あって、私達がここに壁画を描かせていただいたことに感謝いたします。

大分県津久見図書館エントランス壁画
《ある豊後の歴史》



九州有数の石灰産地として知られる、大分県津久見市の津久見図書館エントランス壁面を、フレスコで飾りました。“Una storia di Bungo inaffresco”とは「フレスコによる、ある豊後の歴史」という意味です。「天正遣欧少年使節団」をめぐる歴史上のエピソードをテーマに、この地方と世界との交流の様子を描きました。材料には、津久見産の石灰と、顔料として、石灰の鉱脈から採れる土や岩石を砕いたものも多く使用しています。

第6回 栃木・福島建物視察会に参加して



江藤祐子
TOTO株式会社
営業情報部
日本建築美術工芸協会法人会員

3.11以降、まちづくりや建築への意識も変わってきていますが、今年の見学先は栃木・福島地区となりました。今回は太平洋側の沿岸部ではなく、秋深まった福島県を中心に内陸部を視察し、さまざまな年代のさまざまな建築家の作品を目にすることとなりました。11月11日小雨模様の新宿より29名の旅は始まりました。

まずは群馬県みどり市の「富広美術館」。



日本建築学会賞の作品賞受賞のaat+ヨコミソマコト建築設計事務所が設計の美術館です。

「やさしさにいつでも逢える富広美術館」とパンフレットにサブタイトルがついているように画家・星野富広氏の水彩画を生かす、曲面の壁、低い照度の展示室、品質を保つ収蔵庫があり、建築デザインの美しさと共に、美術品へのきめ細やかな配慮を感じることができました。



次に奥日光中禅寺湖畔に佇むアントニン・レーモンド設計の「(旧)イタリア大使館別荘」。駐車場から15分静寂の中を歩くと、昭和3年に建築されたスギの皮の外装という、自然素材をふんだんに使った木造の西洋建築が現れました。室内の内装・照明・家具は当時そのままと思われる改修が施され、とても居心地の良い時間をコーヒー片手に味わいました。



そして宿は裏磐梯高原ホテル。竹中工務店設計で福島県建築文化賞を受賞し、磐梯山のふもとに繋がるリゾートホテル。昭和33年開業という歴史が訪れる者に安らぎを与えてくれます。夜の交流懇親会は宴会場で終わらず、部屋に戻ってもにぎやかに楽しく続けました。

翌日は待望の晴れとなり、外観の壮大さに驚き、全員で記念撮影を行いました。

翌12日は、まずは会津若松市の栄螺堂(さざえどう)。今まで見たことの無い螺旋構造と、サザエに似た外観は、江戸時代後期の特異な建築様式の仏堂です。

二重らせん構造になっており、上り下りは別の回廊で、いずれも階段ではなくスロープのような上り坂・下り坂が続きます。現代から歴史の中へ入り込んだ気分で見学しました。



昼食をはさんで午後は福島県郡山市立美術館。設計は柳澤孝彦+TAK建築・都市計画研究所で、BCS建築賞日本芸術院賞建築部門などを受賞した、丘陵地と青空と一体となった、横広りの美術館です。3.11の震災では建物自体の損傷は比較的軽微だったものの、休館は余儀なくされ、7月16日に復旧・再オープンとなったそうです。案内して下さった学芸員の方は、苦勞話ではなく、お客様の安全・美術品の保管・地域との共生行事を語られ、美術館とは何か、を知ることができました。



旅の最後は栃木県小山市の「録(ろく)ミュージアム」。

塚田録氏のコレクションを紹介する私設美術館で、若手建築家の中村拓志&NAP建築設計事務所の話作品でした。

林の中に有機的な包み込むようなフォルムと、作品を浮き上がらせる優しい照明は夜が訪れた旅の終わりには、とてもくつろげる空間でした。



今回は美術とつながる建築を視察するという、とても贅沢な2日間でした。東北の静かな豊かな自然の中の存在感ある建築は、これからもずっと東北を訪れて、建築のすばらしさを誰かに話していきたいと思わせるものでした。

最後に、今回の建築視察会に際し、施設・建築案内を快くして下さった現地の皆さま、楽しく過ごせた当協会の皆さまに心より感謝いたします。

出展作品



柳田恵美子 (金属)



北村温子 (七宝)



伊藤五恵 (陶)



藤原和子 (アクリル)



石丸繁子 (書)



村井 修 (写真)



山本裕子 (石粉)



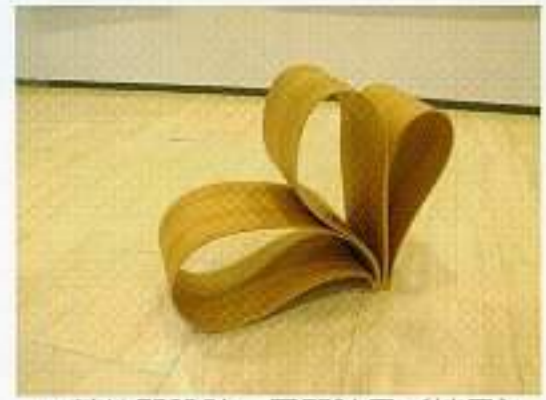
安原竹夫 (金属・和紙・他)



伊藤公象 (陶)



大野 彩 (フレスコ)



三菱地所設計 平野暁子 (椅子)



大成 浩 (オニックス)



細川春海 (スタンドグラス)



内田滋子 (木)

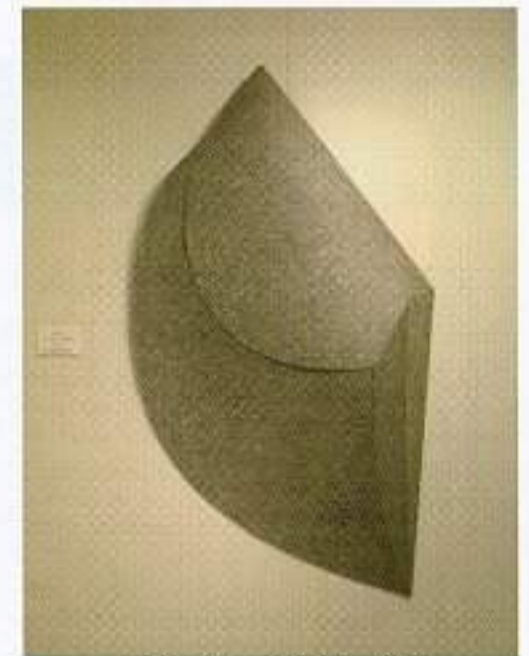
第三回 出展作品



古城江寛 (日本画)



石丸繁子 (書)



石塚一男 (合板・紙)



鈴木法明 (上・下共チタン)



吉野よし子 (ステンレス)



浦山不二秀 (ステンレス)

下記の日程で第一回AACCA展を開催いたします。会員及び一般参加の皆様のご作品紹介展となります。ご参加ください。

第一回AACCA展

平成24年4月16日(月)～29日(日)

16日～22日、22日～29日の出展も可

会場：建築会館ギャラリー・公開広場

参加料：会員 10,000円 一般 15,000円

一般(会員紹介) 12,000円

応募要項・応募用紙等は事務局又はWebサイトまで

- ・作品分野は 平面10作品、立体8作品、パネル5作品程度
パネル5点程度(大きさ等は事務局にお問合せ下さい)。
- ・大きさ・重量の制限があります。
- ・参加希望者が多いとき、作品の種別が偏った際は、委員会にて調整させていただくことがあります。
- ・搬入搬出及び展示台等は出展者にてご手配ください。

新入会員・会員の移動

(2011年9月～2012年1月 敬称略)

新入会員

個人会員

稲垣弘子 〒224-0013 横浜市都筑区すみれヶ丘 8-39
木下哲人 〒110-0015 台東区東上野 6-26-1-601
鈴木法明 〒332-0006 川口市末広 1-4-5-602

Tel.045-591-4690 青いアトリエ
Tel. 09026124070 日本大学生産工学部
Tel. 09014563732 彫刻家

法人会員

株式会社 エクシズ 代表取締役 笠井政志 担当 東京営業所 山本新也
〒570-0071 岐阜県多治見市旭ヶ丘 10-6-55 0552-20-0771

東日本大震災 「芸術環境復興預金」へ募金のお願い

12月末現在 50,212円

協会ではこの度の東日本大震災により、逸失してしまいました地域の文化や街並みの復興のため、復興預金を積立て毎年度末にその目的実行の為に寄付を行うことになりました。復興にはかなりの時間を要する事と考えられますが、その一助となることを協会の目的に加えしました。協会は今後実施いたします諸活動において募金を実施して参ります。会員の皆様には芸術活動やチャリティー活動等による売上の一部でも募金に充て、復興の一助として下さい。

復興預金口座は下記に記載いたしました。会員の皆様のご支援をお願い致します。

郵貯銀行 港芝五支店 当座預金 口座名：AACCA芸術環境復興預金口座
店番：019 口座番号：0338383

会員投稿記事 募集中

会員の皆様の

作品紹介、活動報告、
展覧会、個展等のご案内
企業の広告、出品展等のご案内を
会報に掲載いたします。詳しくは
広報委員会にご相談ください。

会報について

会報へのご意見 ご希望を
お寄せください。(広報委員会)

発行

社団法人 日本建築美術工芸協会
発行人 会長 中島昌信

〒108-0014
東京都港区芝5-26-20 建築会館6階
Tel 03-3457-7998
Fax 03-3457-1598
Url http://www.aacajp.com
E-mail info@aacajp.com

編集

広報委員会
瀬川 秀之 石田 真人 神谷 ふじ子
竹生田 正 中村 弘子 野口 真理
山崎 輝子
事務局

